

茨城ロボットとの連携による 地域活性化促進プロジェクト

〔自治体等側事業責任者〕

株式会社茨城ロボット・スポーツエンターテインメント・代表取締役社長

山谷 拓志

〔大学側事業責任者〕 茨城大学理学部・教授

中村 麻子

選択テーマ

学術文化の推進その他

連携先

株式会社 茨城ロボット・スポーツエンターテインメント

株式会社 いばらきスポーツタウン・マネジメント

プロジェクト参加者

中村 麻子 (茨城大学理学部・教授 担当：事業担当責任者・企画立案・全体総括)

加藤 敏弘 (茨城大学人文社会科学部・教授 担当：事業担当者・企画立案・情報収集)

松村 初 (茨城大学教育学部・教授 担当：事業担当者・企画立案・情報収集)

山谷 拓志 (株式会社 茨城ロボット・スポーツエンターテインメント・代表取締役社長 担当：事業担当責任者・企画立案・調整・総括)

佐々木知美 (株式会社 茨城ロボット・スポーツエンターテインメント・広報アシスタント 担当：企画立案・調整・交渉)

川崎 篤志 (株式会社 いばらきスポーツタウン・マネジメント・代表取締役社長 担当：事業担当責任者・企画立案・調整・総括)

沼田 秀一 (株式会社 いばらきスポーツタウン・マネジメント・イベント担当 担当：企画立案・調整・

交渉・イベント担当)

プロジェクトの実施概要

① プロジェクトの目的

平成 31 年開催予定の茨城国体や平成 32 年開催予定の東京オリンピックに代表されるような大規模なスポーツイベントを介した地域振興・活性化が注目されている。また、地元スポーツ連携型の大学による地域貢献は社会的関心が非常に高い。そうしたなか、地方国立大学として地域活性化志向力を有する人材育成を求める社会的要望が高まっている。そこで本事業計画では、株式会社茨城ロボット・スポーツエンターテインメント社(以下、茨城ロボット)が掲げる「スポーツにより地域の活性化や地方創生に貢献する」という理念と、茨城大学の大学憲章が掲げる「市民や社会から信頼される大学であるために、地域と連携した教育と研究を推進する」理念とを強く連携させることで、地域プロスポーツの更なる発展と茨城大学の地域貢献力の向上を目指すものである。また、本連携事業への茨城大学学生の参画を通して、茨城大学のディプロマポリシーである「課題解決能力・コミュニケーション力」「社会人としての姿勢」および「地域活性化志向」の3つの力を積極的に養うことを目的としている。

② 連携の方法及び具体的な活動計画

平成 30 年度は、本連携事業に茨城大学学生を含めた地域住民が積極的に参画できる基盤

づくりを目的として、茨城ロボッツと本学との連携協定締結の実現を中心として、iOP クォーターに向けた具体的な連携体制の確立や、茨城大学での茨城ロボッツ経営者による特別講義の実施(こちらの活動については別途「地域研究プロジェクト」の特別セミナーとして実施)、さらには茨城ロボッツのホームゲーム試合運営におけるボランティア活動参加などを活動計画をした。

③期待される成果

水戸市を本拠地とするプロバスケットボールチームである茨城ロボッツと茨城大学が連携することで、地域スポーツ活動の拠点づくりに大きく貢献すると期待する。例えば、茨城大学内の体育館など一部の施設や機能を地域住民へ開放することはあり得ても、地域住民のスポーツ活動の拠点となることは考えにくく、茨城大学単独で地域スポーツの核としての地域貢献は不可能である。しかしながら、茨城ロボッツと茨城大学がお互いの資源を活用していくという考え方のもと事業連携を行うことで、スポーツ文化活動の拠点構築という地域活性化をもたらすことができると期待する。また、本連携事業への茨城大学学生の参画は地域の子ども達や中年・高齢者との直接的な交流を生むこととなり、学生自身が、これらの活動を通して成長し、茨城の活性化を担う人材となることを期待する。

最後に、茨城のプロバスケットチームとの連携事業推進は、地域住民だけでなく受験生に対して魅力ある地域協働型国立大学としての強みを発信できると期待する。

プロジェクトの実施成果

① 活動実績

1：茨城大学・茨城ロボッツ連携に関わる支援団体として「Ibaraki University x Ibaraki Robots Delegation (iBIRD)」の立ち上げを平成30年8月に行った(図1)。平成31年2月現在の所属人数は69名であり、うち学生



図1：iBIRDのロゴマーク

(院生を含む)が56名、教職員13名となっている。

また、iBIRDに関する情報発信源としてTwitterアカウント(@iBIRD_ibadaix)やオフィシャルメール(ibird.ibadai@gmail.com)等を設置した。

2：平成30年8月22日にM-SPO まちなか・スポーツ・にぎわい広場にて茨城大学・茨城ロボッツ連携協定締結式および記者発表会を行った(図2、図3)。当日は三村茨城大学学長と事業担当者である山谷代表取締役社長による調印式に加え、事業担当者の他にiBIRD学生も参加し、今後の事業展開について説明を行った。多くのマスコミ関係者の参加があり、本事業の関心の高さが伺えた。



図2：茨城大学・茨城ロボッツ連携協定締結式の際の記念パネル



図3：連携協定式の様子を紹介する産経新聞記事（平成30年8月23日記事）

3：平成30年9月15日に茨城大学・茨城ロボッツ連携記念試合として茨城ロボッツのプレシーズンマッチを青柳市民体育館にて開催した（図4、図5）。当日は、茨城大学教職員・学生に対して特別割引チケット（1000円）を販売し、多くの茨大教職員・学生に観戦の機会を設けた。また同時に、iBIRDメンバーに茨城ロボッツの試合におけるボランティアやアルバイトを募集し、実際に試合運営に関わるなど連携を強化していった。



図4：平成30年9月15日の連携記念試合で全観客に配布されたゲームプログラム



図5：平成30年9月15日の連携記念試合でのチップオフセレモニー

4：平成30年10月下旬から学内にて2020年Bリーグオールスターゲーム招致に向けた署名活動を iBIRD メンバーおよび茨城ロボッツスタッフを中心に学内で実施した。平成30年11月9日には本学で集めた署名数百枚について三村学長から山谷代表取締役社長に受け渡した（図6）。



図6：Bリーグオールスターゲーム招致にむけた署名の授与

平成30年11月13日に行われたBリーグ理事会では有効投票数全13票のうち、北海道は7票、茨城県は6票と1票差で敗れたものの、茨城県・水戸市の活性化に大きく貢献することができた活動であった。

5：平成30年11月16日-17日に実施された茨苑祭において「地域連携事業 地元プロスポーツチームとの連携紹介展示」を実施した。茨城大学が連携協定を締結しているプロスポーツチームである水戸ホーリーホック、茨城ロボッツに関する様々なアイテムの展示を通して、茨城大学の地域連携事業について紹介するイベントとして企画した。当日は茨城ロボッツ担当者から選手サイン入りユニフォームやシューズ、プロモーション動画などの提供を受け展示を行った（図7）。会期中はiBIRD学生3名が展示ブースの運営サポートを行った。2日間で多くの学内、学外参加者が来場し、連携事業の社会発信を行った。



図7：茨苑祭における連携紹介展示

② プロジェクトの達成状況

本プロジェクトは正式な連携協定を締結できたことに加え、初年度でありながらiBIRD設立、iBIRDメンバーによる連携活動への参画など実効性のある成果を出していると考えられる。今後、iBIRD主催による積極的な事業展開を行っていくための十分な基盤が確立でき

たと考える。

③ 今後の計画と課題

来年度は東町体育館「アダストリアみとアリーナ」が完成し、茨城ロボッツのこけら落としゲームが平成31年4月6日、7日に予定されている。新アリーナは茨城大学からもアクセスが非常によいことから、学生による積極的なボランティア活動の参画を行う。また、バスケットボールや運動部と連携し、茨城ロボッツが主催するスポーツイベントへのサポーターティングコーチとしての参加や、学生(iBIRDメンバー)によるシーズンゲームの試合運営体験などを通して、茨城ロボッツ事業と強く連携していく。また、平成31年度はカリキュラム改正後初めてのiOPクォーターが実施される。iOPクォーターでは茨城大学学生が積極的に茨城ロボッツ事業へ参画できるように体制を整える。茨城大学は地方総合大学として、スポーツ・食・科学・文化等幅広い専門性を有することから、本事業を通じたこれら専門的知識の共有さらには茨城ロボッツとのコラボレーション展開を目指す。



図8：本事業を紹介するのぼり旗デザイン